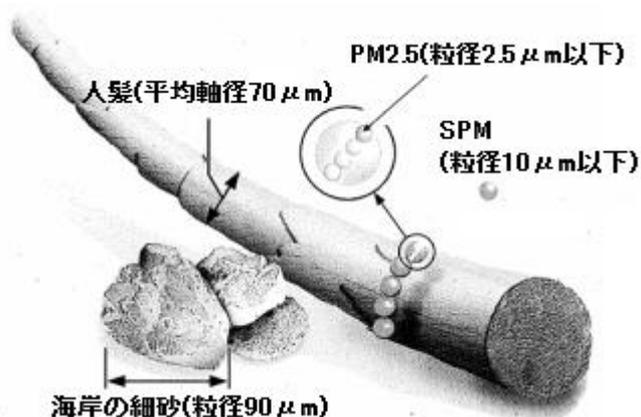




浮遊粒子状物質 SPM と微小粒子状物質 PM2.5 について

<大気環境担当>

- ・浮遊粒子状物質（SPM）：大気中に浮遊する粒子状物質のうち粒径10 μm 以下の粒子。
- ・微小粒子状物質（PM2.5）：SPMよりも小さく、粒径2.5 μm 以下の粒子。
(1 μm =1mmの1000分の1)



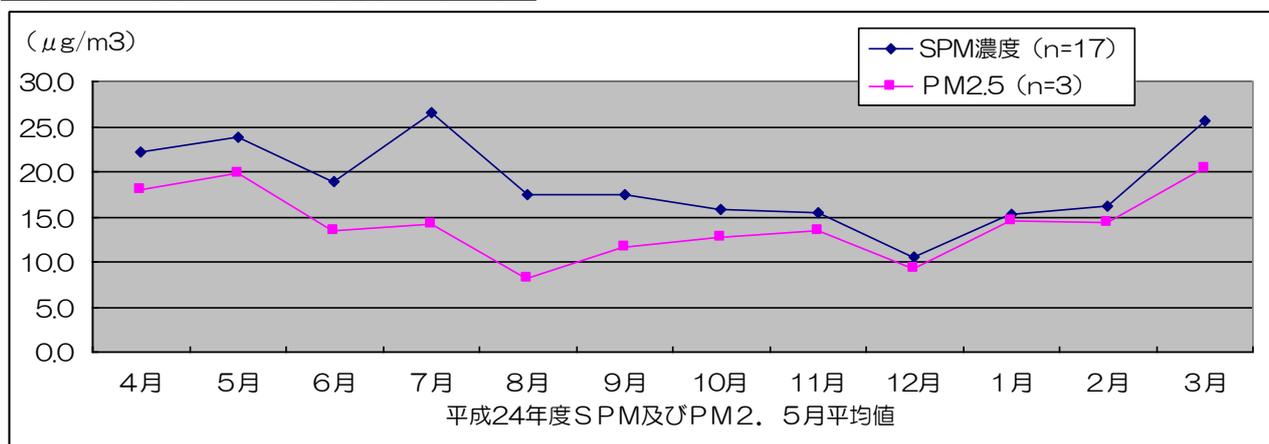
人髪とPM2.5の大きさ比較（環境省HPより）

PM2.5の大きさ＝髪の毛の太さの30分の1程度

☆徳島県の測定状況

保健製薬環境センターでは、一般環境の大気の状態を県内各地で測定しておりますが、浮遊粒子状物質については県内17地点、微小粒子状物質については県内5地点（平成25年3月末2地点追加）で測定を行っております。

☆平成24年度における徳島県の測定結果



大気中浮遊粒子状物質の原因には、自然由来（海塩粒子や土壌粒子）や人為由来（燃料や廃棄物の燃焼）など様々な要因があり、さらには、大気の状態によっても大きく左右されます。

一般的に浮遊粒子状物質は、春季から夏季（4～7月）、晩秋から初冬季（11月頃）にかけて高くなる傾向にあり、これは大気の状態による影響と黄砂等の影響があるとされています。

徳島県の大気の測定結果については、HPを通してリアルタイムで公表しています。お住まいの地域の大気の状態についてはこれら測定結果の情報を参考にしてください。

○徳島県HP(<http://www.pref.tokushima.jp/>)のPM2.5情報→PM2.5関連情報について

○保健製薬環境センターHP(<http://www.tokushima-hokancenter.jp/top.htm>)→県内各地の大気測定結果